



小運送と道路(一)

鐵道公認運送組合  
中央會會長

中野金次郎

實業界の耆宿澁澤子爵は内外諸般實に御多端であるに不拘我邦道路改良の一日も忽にすべからざることを懸念され親ら其改良に關する方策を講究促進され此頃は又傲を四方に飛ばして各方面の意見を徴せらるゝなど誠に敬服に堪へぬ次第である。

私は日頃全國小運送の業務に關係を有し始終其改良進歩に就て腐心して居るものである。道路と小運送、道路あるが故に小運送が行はれ、小運送あるが故に道路の改良が必要である。

都市の繁榮、地方産業の勃興、商業取引の革新、國家經濟力の均衡之等は皆物資の移動に依りて進歩促進された、而して驛より驛まで岸より汀迄此大量輸送は鐵道船舶の運用に依つて其目的を果たせるが荷主より荷主まで將又眞の生産者より眞の需要者の手許に迄物資を送達する此の至大至要な全部の運送行爲中鐵道船舶を除いた其首尾の運送は總べて小運送業者の領分である、そして此小運送作業は河川或は最も僅少なる空中輸送を除いては總べて普通道路の上に於て行はれて居る。而も鐵道船舶は蒸汽、電氣の如き強烈なる動力を使用するのである、併も水上及軌上は誠に摩擦抵抗が少ないのであるから學者の所謂最少の勞力を以つて最大の効果を收めることが出来る、然るに平水の抵抗一軌上の、抵抗五、に對する砂利道の一二五、泥路の二五〇と云ふが如き十幾倍の抵抗を以つて居る路面を貧弱な瘠馬や車力の力で鐵道及船舶から受繼いだ總べての大量輸送を引受けて居る小運送作業の困難なるは茲に説明する迄もなく道路の破壊凹凸の爲めには輸送の分量は彌が上にも減少し其速力も亦之に伴ふて著しく減少するのである、而して其勞金は之に反比例して近年意外の高價を示す爲め物價を益不廉に陥らしめることになるのである。

然るに不拘世人は兎角此小運送を簡單輕少に觀過して居る、夫れは小運送と云へば文字の通りの小なる運送である、馬方が馬の鼻ヅラを牽いてトボトボと歩いて行く遲鈍小量の運送であるかの如くに誤解され易い、従つて小運送に要する爲めの道路改良が大切であるといふようなことには餘り周到の

注意が拂はれて居らぬ之は邦内一般經濟上の見地よりして最も重大なる缺陷であると云わねばならぬ、之を數字で舉げて云ふならば我が國有鐵道に於ける貨物收入は年額一億六七千萬圓であるが一般國民が小運送の爲めに仕拂つて居る總額は少なくとも五億乃至六億を上下するのである。

今日我邦物價高騰の指數が世界各國の夫に比べて著しく大きいのは小運送に要する實費が餘りに高過ぎるのも其一因であることは決して否定出來ないのである、従つて此小運送問題を解決せざる以上我國民は何時迄も生産需要に苦しみ、生活の困難は一日一日と増加して來ることは極めて明瞭であることを考へねばならぬ。然らば如何にして小運送費を減退せしめるかといふに第一は澁澤子爵の唱導せらるゝ通り道路の改良である、道路の抵抗が多くて骨の折れる場所では勞力と時間と勞金とに莫大なる損失がある。申す迄もなく物資の輸送は安全で正確で迅速で低廉で便利で大量輸送に堪へねばならぬ、此六つの要件は何としても道路が完全でなくては決して其良果を擧げること出來ない。

願みれば往昔羅馬の帝政時代に於てさへ已に道路の築造整理に關しては著大なる進歩を示し當時已に鋪石道を作り、平坦砥の如くにして之を歐州大陸の全土に連絡し、總べての道路は羅馬に通ずと稱して帝政の美を誇り、「アウグスツス」「ウエスバレアン」「ドミナアレ」等の如き皆道路改良の熱心を以つて幾千年の後迄も其英名が史上に残されて居る、惜哉之等道路の管理は完全なる中央政府の權威の下に於て始めて其成績を擧げることが出來るのであるに不拘、羅馬帝政の凋落と共に中世封建の制度は遂に其經營維持が各領主の割據的分掌となり而も其管理は自己の權利を認めるのみにて社會一般に對する義務の觀念が缺けて居た爲め延いて道路の修繕は殆んど實行されず又新たな開鑿をもなさ

す遂に道路の破壊は行旅の困難となり輸送の澁滞となり一國の經濟組織が年一年と衰退に赴いて憐れ今は只後世の士人をして羅馬帝政の整美を其廢墟殘壘にのみ俾ばしむることとなつたのである。翻つて我邦三千年の道路交通に關する歴史を顧みれば其實狀が羅馬帝政以後に於ける有様と甚だ相類したものである、崇神の朝には四道將軍を置き應神の朝には、皇化全邦に洽く四方聲音通ぜざるの地無きに至り、の記録があつて繼體天皇の朝には國造を置くこと百二十有五、諸道の脈絡相通ぜりと記されてある。

降つて大化の新政に入り所謂驛傳の方法が始まつて兎も角も天朝時代の終迄之れが繼續したことは史乘の上に最も明瞭に記されてある、然るに悲哉平安朝の末葉に至り朝威衰へて政令滑かならず遂に鎌倉幕府の教興となつたのである。文治四年偶々京都鎌倉間片道七日の飛脚制度を見るに至つたが之れ等は只平家追討の爲めにする強徵主義に依る軍事交通が主なるものであつた、従つて一國の經濟進展の爲めにする計劃は甚だ少なかつたのである、降つて戰國時代に入り群雄割據天下亂れて麻の如く道路の改良といふ様なことは殆んど顧みられて居らなかつた實狀は丁度羅馬の史乘に髣髴たるものがある。降つて徳川氏の江戸政治に入り道路制の稍見るべきものが出來ては居たが之又東海東山中仙道濱街道、山陰、山陽兩道の如き皆之諸候參勤交代の便に供するもので到る處殊更に關所を置き制札點檢の嚴法に依つて著しく行旅物資の交通を阻害し剩さへ馬入、富士、安倍、大井、天龍の如き諸川には故らに橋を架せず船を置かず僅かに人肩連臺からざれば徒涉を餘儀なくせしめたるが如き旅行の困難運送の遲鈍なる固より話の外であつたのである。(未完)